

えちぜん 議会だより

vol.
65
2021.8.1



越前町

人と技
海土里織りなす
快適なまち



七夕会（お祭り）

目次

第2回臨時会・6月定例会報告	…… 2P～3P
議員10人が一般質問	…… 4P～13P
現場踏査・町内公共施設視察	…… 14P
出欠状況	…… 15P
議会広報研修会・表紙の写真	…… 15P
がんばってます！・編集後記	…… 16P



体育教室

第2回臨時会

会期／4月27日

補正予算

新型コロナウイルス感染症対策

※国の「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を受け、対策を実施

「大学生等生活支援」 2,510万円

新型コロナウイルス感染症の影響による世帯収入減少が原因で、学業を断念する学生等が出ないよう生活を応援するため、対象者1人につき5万円を給付する。

「共通商品券発行」 6,780万円

地域経済の活性化のため、町内店舗で利用できる1人3千円分の商品券を発行する。

人事

次の方々の選任・任命について、全会一致で同意した。

副町長



細井 秀之
(南越前町)

教育委員会教育長



出口 俊一
(越前町)

第2回臨時会に提出された議案等

議案番号	件名	議決の結果
承認第5号	専決処分の承認を求めることについて（越前町税条例等の一部改正について）	全会一致承認
承認第6号	専決処分の承認を求めることについて（原子力発電施設等立地地域の指定による町税の特例に関する条例の一部改正について）	〃
承認第7号	専決処分の承認を求めることについて（越前町国民健康保険税条例の一部改正について）	〃
承認第8号	専決処分の承認を求めることについて（越前町介護保険条例の一部改正について）	〃
議案第37号	越前町新型コロナウイルス感染症対策利子補給基金条例の制定について	全会一致可決
議案第38号	令和3年度越前町一般会計補正予算（第1号）	〃
同意第6号	越前町副町長の選任について	全会一致同意
同意第7号	越前町教育委員会教育長の任命について	〃

6月定例会

会期／6月8日～14日

条例

越前町特別職の職員で常勤のものとの給与及び旅費に関する条例の一部改正について

施策の財源として活用するために、令和3年7月1日から令和7年3月12日の町長任期満了までの期間に限り、左記のとおり特例措置を設けるため、条例を一部改正する。

職名	給料月額 改正前	給料月額 改正後	備考
町長	88万円	70万4千円	2割減額
副町長	68万円	61万2千円	2割減額
教育長	58万円	52万2千円	1割減額

越前町出産祝金支給条例の一部改正について

出産祝金の受給要件及び支給金額の拡充に伴い、条例を一部改正する。

【現行】

第3子以降が生まれた場合に支給
第3子以降 1人5万円
【改正】
子が生まれた場合に支給
第1子・第2子 1人3万円
第3子以降 1人30万円

【町営野球場改修】

775万5千円

利用者の安全性・利便性の向上を図るため、町営野球場のグラウンドや放送機器等の改修工事を計上する。



町営野球場

発議

越前町議会会議規則の一部改正について

議員活動と家庭生活との両立ができる環境づくりのため、会議の欠席事由に、出産・育児・介護などを明記するとともに、出産による欠席については、欠席期間を定める議案を提出。全会一致で可決した。

定例会報告

【喰付熊キャンプ場施設解体】

833万8千円

森林の環境整備を図るため、老朽化し、長年使用していない「喰付熊キャンプ場施設」の解体工事を計上する。

バンガロー 6棟
トイレ 2棟 他



バンガローAタイプ



バンガローCタイプ

【宿泊施設改修補助】

1,502万円

北陸新幹線開業を見据えた観光客の受入れ環境の充実を図るため、県の「民宿リニューアル支援事業補助金」を受け、民宿事業者が行う店舗改修費を補助する。

県13、町13、民宿事業者13負担

可燃ごみ用
500円→250円
プラごみ用
250円→125円



町指定ごみ袋

【観光施設改修】

9,168万円

利用者のサービス向上を図るため、県の「市町協働による地域みらい応援プロジェクト補助金」を受け道の駅パークイン丹生ヶ丘の改修や、一部地方債を利用して悠久ロマンの杜朋楽館の改修など、町内観光施設の改修工事を計上する。

【獣害防止柵設置】

682万円

越前水仙を鑑賞する観光スポットとして維持していくため、越前岬水仙ランドにおける、イノシシなどの獣害防止柵設置工事を計上する。

【都市公園施設改修】

750万円

利用者の安全性を図るため、東部1号公園の遊具や木製ベンチなどの改修工事を計上する。



破損した木製ベンチ

【GIGAスクール環境整備】

8,349万8千円

教育の情報化が加速化するなか、町内の小中学校にICT機器を効果的に活用するため、大型提示装置（電子黒板）等の備品購入費を計上する。

6月定例会に提出された議案等

議案番号	件名	議決の結果
報告第2号	令和2年度越前町一般会計繰越明許費繰越計算書	報告のみ
報告第3号	令和2年度越前町公共下水道事業特別会計繰越明許費繰越計算書	〃
議案第39号	越前町特別職の職員で常勤のものとの給与及び旅費に関する条例の一部改正について	全会一致可決
議案第40号	越前町出産祝金支給条例の一部改正について	〃
議案第41号	越前町子ども医療費の助成に関する条例の一部改正について	〃
議案第42号	令和3年度越前町一般会計補正予算（第2号）	〃
議案第43号	令和3年度越前町簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）	〃
議案第44号	令和3年度越前町公共下水道事業特別会計補正予算（第1号）	〃
議案第45号	令和3年度越前町集落排水事業特別会計補正予算（第1号）	〃
発議第4号	越前町議会会議規則の一部改正について	〃



中西 清 議員

いっぱん質問

一般質問とは
議員が行財政全般にわたって町に疑問点をただし、所信の表明を求めるもの



高田 浩樹 議員



町政運営等の基本的な考え方

越前町を取り巻く状況や課題は

高田

越前町を取り巻く状況や特徴、課題をどのように捉えているのか。

町長

本町の地理的状況として、高速道路、JR等に直結せず、交通網が脆弱であり、企業誘致の面など不利な状況である。

若い世代の町外流出、人口減少や少子高齢化が急激に進み、各分野に様々な影響（空き家の増加、各産業での後継者不足、適正な学校運営等）を及ぼしている。

一方、子育て環境や地価などの面で、住みやすい町であると考えている。

目指す姿や基本姿勢は

高田

行政方針、目指す姿、基本姿勢について町長の所見を伺う。

町長

行政方針としては、4地区のバランス、部門別のバランス、施策のバランスなどに留意していく。目指す姿としては、少子高齢化、人口減少がもたらす様々な問題が山積している中、何が最も必要なのかを見極め、真に必要なものを選択集中、生活のしやすさを追求し、小さく賢く成長していくことが今後のまちづくりのあるべき姿

行政方針としては、4地区のバランス、部門別のバランス、施策のバランスなどに留意していく。目指す姿としては、少子高齢化、人口減少がもたらす様々な問題が山積している中、何が最も必要なのかを見極め、真に必要なものを選択集中、生活のしやすさを追求し、小さく賢く成長していくことが今後のまちづくりのあるべき姿

であると考えている。

また、「人にやさしく地域にやさしいまちづくり」を基本姿勢とし、子育て支援や定住促進策、高齢者福祉策などのさらなる拡充を図り、町民の皆様が住んで良かったと思えるまちづくりを目指す。

掲げている施策のスケジュールは

高田

町長は、いろんな場面で「スピード感」について言及されてきたが、掲げている施策について、いつ頃までに着手していくのかを伺う。

町長

就任後実施したもの、大学生等生活支援給付金、町長公用車の売却、町長送迎の廃止があり、今定例会において、町三役の給料減額や子ども医療費、出産祝金の拡充についての議案を提出、一般会計補正予算にて町指定ごみ袋の値下げに伴う補償費を計上した。制度設計を十分に図る必要がある施策もあるが、意思決定の迅速化も大事であることから、今定例会が終わる次第、具体的な工程を検討していきたい。

持続可能な財政運営について

高田

越前町の経常収支比率は、98.7%（2019年度）である。また、財政

力指数は、0.34（県内市町平均は0.6）であり、地方交付税に大きく依存している。

人口減少、地方交付税の減少など、今後も財政状況が厳しくなる中、持続可能な財政運営について町長の所見を伺う。

町長

地方交付税の特例措置の段階的縮減、統合学校給食センター建設、本庁舎整備事業等により、経常収支比率は、2015年度から上昇傾向にある。このままでは今年度から2026年度まで100%を超える見込みであり、財政の硬直化が進んでいる。このため、持続可能な財政運営を確立するために、財政健全化への取り組みを強化していきたい。

自主財源の乏しい本町において、歳入歳出の徹底した見直し、特に歳出におけるスクラップ・アンド・ビルドに取り組み、事業効率化を進めるとともに、歳入においては確実な財源確保やふるさと納税を戦略的に行っていく。

※経常収支比率・財政構造の弾力性を表す指標で、低いほど政策的経費に充当できる（一般財源に余裕（理想は70%～80%）があり、逆に100%を超えると経常的経費が収入で賄えず、財政の硬直化が深刻であることを表す

リーダー像について

高田

どのようなスタンスでリーダーシップを発揮していくのか、現在描いているリーダー像を伺う。

町長

私が思い描くリーダーシップ像は、将来像を掲げ、理想を実現するために職員の意見を広く求め、組織全体を動かしていくようなイメージである。

そのためには、日頃から職員とのコミュニケーションが重要であると考えている。風通しがよく、柔軟な発想が引き出せる職場づくりに努め、新しいことにもチャレンジしていきたい。

高田

今回、総論的なテーマであったが、今後、各論（個別具体的な案件）になると、行政のみならず、町民の方々にとって、一つひとつが大事なテーマになると考える。

行政と議会は、町政発展が共通の目標であり、議員として政策提案を含めしっかりと議論を尽くしていく。



子育て支援対策について

子ども医療費を完全無料化に

中西

子育て世代の支援については、住みやすいまちづくりと経済、財政的にも効果が見込まれ、定住化、少子化対策、人口対策にもつながる。

本定例会において、子ども医療費制度の拡充に伴う条例改正を提案されているが、子ども医療費については、完全無料化を実施して頂きたい。また、完全無料化にした場合の必要経費について伺う。

町長

本町では、子ども医療費助成制度に基づいて、子どもに係る医療費の一部を助成することにより、子どもたちの保健の向上と福祉の増進のほか、保護者の経済的負担の軽減を図っている。現在、未就学児の子どもに係る医療費については全額を助成、小学1年生から中学3年生までの子どもに係る医療費については一部を助成している。

完全無料化にした場合の必要経費について、まず小学1年生から中学3年生（15歳）までの自己負担金は、令和2年度の実績で約400万円である。そして16歳から18歳までは、自己負担分を3割として約800万円、合わせた1,200万円が新たな公費となる見込みである。さらに現行制度

において既に負担している公費が約2,900万円なので、18歳までの医療費を完全無料化した場合、公費負担見込額の総額は年間約4,100万円となる。

本定例会において、子ども医療費制度の拡充に伴う条例改正の提案をしているところであり、本年10月から助成対象を中学3年生の15歳までとしているところを、18歳まで拡充する。また、助成対象範囲は拡充するが、自己負担額については現行どおりとしている。完全無料化については、町の財政状況や適切な自己負担のあり方を十分考慮し、検討していきたい。

学校給食費の無償化実現を

中西

学校給食は、食育として学校教育に根づいている。義務教育の無償化の一環として、本町が率先して学校給食の無償化を実現してほしい。

町長

全国自治体の学校給食費の無償化の実施状況について、4.4%の小中学校が実施しており、24.4%の小中学校が一部無償化、一部補助を実施している。また、県内の実施状況について、永平寺町と高浜町で無償化を、また大野市では第3子以降に無償化を実施している。

地域医療体制について

織田病院存続と人材育成を

中西

地域医療拠点の織田病院は、高齢化が進む本町にとって唯一の公立病院であり、今後も新たなウイルス感染症が心配される中において、役割は重要である。医師、看護師の負担軽減と、診療体制の充実を図るには、人材の確保が必要であることから、無返済の奨学金制度など、人材育成を進めていた

町長

織田病院は、町民が必要とする医療を提供しており、また本町に

令和3年度当初予算における学校給食費負担金は、小中学生及び教員分等で約9,200万円の歳入予算を計上しており、無償化を実現するためには、当然この財源の確保に努めなくてはならない。



▲現在提供されている学校給食の一例

は入院設備のある病院数が少ないため、織田病院の果たす役割は大きく、現状の病床数の確保に努めていきたい。

奨学金制度については、県医師確保就学制度により、福井大学医学部や自治医科大学に入学後6年間の支援があり、卒業後9年間県内の指定医療機関に勤務すると、奨学金の返済は免除される。看護師については、織田病院に看護師奨学金制度があり、織田病院に勤務すると奨学金の返済が免除される。このような奨学金制度を紹介し、人材確保に取り組んでいきたい。



伊部 良美 議員

いっぱん質問



時田 和良 議員



人口減少対策を目的とした若者の活動支援について

現在の若年層に対する取り組み

時田 人口減少問題の大きな原因である若年層の転出に対する取り組み、また若者の活動支援について現状を伺う。

総務理事

若年層の転出に対する取り組みについては、住宅政策と就労支援政策がある。住宅政策としては、町内で生まれ育った若者が子育て世代となっても両親等と同居できるよう、住宅の改修費用に対し最大60万円の補助などを行っている。就労支援としては、町内企業の魅力を知ってもらう企業見学バスツアーや、丹生高等学校就職希望者企業訪問などを実施している。また、県内大学卒業生には、町内外事業所への就職に対して奨励金を交付している。

若者の団体で昨年度結成された「チーム越前夢おこし」は、人口減少などの地域課題を少しでも解決するため、オリーブ栽培や空き家リノベーションなどの活動を通じて、若者が活躍できる町を目指しており、町としてもこのような活動が、若者の地域定着に繋がるものとして支援をしていく。学生への活動支援については、丹生高校

生との交流、協働を引き続き行っていく。

さらなる具体的な支援を

時田 もっと具体的に、若者が自由に活動できる人的及び金銭的での支援をする仕組みを作れないか？またそれを、役場の若手職員に企画立案させてはどうか？

町長

本町では新任の地域おこし協力隊が、移住コンシェルジュとして活動しており、地域を活性化させる若者との交流を行っている。また、越前町若者移住促進プロジェクトチーム「ココクルー」を町民から公募しており、役場職員も参加して、本町を盛り上げるための様々な企画を若者の手で取り組む支援を行っている。

より多くの若者に本町を知ってもらい、町の魅力を伝えることは、若者の積極的な行動を促すことになる。そのためにも、職員全員が本町の広報官としての意識を持って、情報を発信していく。町としては、さらに若手職員がアイデアや役割を積極的に発揮できるよう環境を整備していく。

原子力発電の再稼働に係る準立地市町としての対応について

関西電力美浜3号機の再稼働についてどう考えるか

伊部

原子力発電の再稼働について伺う。運転開始から40年を超え、かつ10年間動いていない原発の安全性に対する問題はないのか。原子力政策の明確な方向性や具体的な振興策は提示されるのか。今後こうした点において、国の動向を見極めながら、国の返答があればいつでも精査、検証する考えが示されているが、今後どう対峙されるのか、町長としての考えは。

町長

原子力発電所の再稼働については、全国が注目している大変重要な案件だが、隣々接という立場なので、まずは立地市町の意見を尊重したい。これまで同様、福井県原子力環境安全管理協議会の委員として、立地市町とともに原子力発電所の安全な運転、管理、環境保全について注視し、必要であれば意見を申したい。また、事業者に対しては、逐一適切な情報の提供、説明を求め、本町の安全を確保していく。

電源三法交付金についての考えは

伊部

40年超の原子炉を運転するとなると、当然、大なり小なりの事象も考えられ、ましてや10年間使用していない原子炉について、安全が最優先で、住民の生活が担保されるよう強く働きかけていきたい。

また、電源三法交付金についての考えはあるのか。

町長

40年超運転の原子力発電所を対象に、1発電所につき25億円を立地県に交付されることは承知している。また、核燃料税については、県は税率引上げの方針を固めたと同っている。電源三法交付金も含め、これらは一定のルールに基づいて県及び市町に配分されるものであるが、立地市町だけでなく、準立地も含めた地域の振興に資する配分や設計となるよう、準立地市町連絡協議会が協力し、若狭町長を中心に働きかけていきたい。また、原発の再稼働は、安全が最優先であることは当然なことなので、毅然とした対応で臨んでいく。

丹生高校の育成・支援について

現在直面している問題（通学バス）について対策を

時田

現在一番困っている、土日祝日の通学バスの運行について対応策を。

総務理事

今年2月の丹生高校探求活動発表会で、生徒たちからバス時刻の変更に関する研究発表があった。まずは、丹生高校と協力して現状と利用者状況などを把握し、結果を踏まえた上で最善策を検討したい。

今後の支援について

時田

今後の丹生高校に対する支援について、町長の所見を伺う。

町長

丹生高校は、町内唯一の公立高校として100年に近い歴史を有する、本町にとって大切な学校である。今後も、丹生高校を存続させていくため、様々な課題に対してバックアップしていきたいと考えている。学生の学ぶ力の底上げや教材費への支援など、丹生高校が学びがいのある学校として選択されるよう支援策も検討していく。これからは真摯に耳を傾け、丹生高校の魅力や活力を高める提案には積極的に対応していく。そうすることで、高校生たちが誇りと希望を持って通うことができる学校となるよう、引き続き支援したいと考えている。

情報公開の推進の方法について

LINEを使って情報発信を

時田

町政情報の発信を推進する方法として、LINEの越前町公式アカウントの周知・活用を提案する。

町長

今後は、職員向けのLINEの発信操作や記事の表現方法などの

に関する研修会を開催し、職員の知識の向上を図るとともに、広報えちぜんへのQRコード掲載など、町民がアクセスしやすい環境づくりを目指していく。

また、利用者のニーズを伺いながら、先進的な取り組みを行っている自治体の仕組みづくりも視野に入れ、積極的な活用を図っていきたい。

越前地区道口定住促進団地について

将来の担い手のために

伊部

道口定住促進団地の土地は、平成15年に26区画団地造成を行い、貸出した結果、2年後には全て契約を終え、18年を迎えようとしている。この間に家を建て、子どもたちにも恵まれ、すくすく成長してきたと思われる。そしてこの子どもたちに、将来漁業者など本町の担い手として育ててもらうため、行政として力を貸すべきと考えている。例えば、この団地を特区扱いにして、一過性な一代限りで終わるのではなく、将来何代も継承していくような環境を目指したいと思うが、町長の考えは。

町長

道口団地は旧越前町の人口減少対策として若者の町内定住を促進するため、平成15年に人口の定着化を図ることを目的に、26区画団地造成を行い、募集した。

また、人口減少の大きな要因の1つである、町内の住宅地不足が第2子・第3子などの若者世代の流出に拍車をかけていたことから、募集要綱には、次の条件を設定し、町内の若者に配慮した要綱とした。

- ・ 町内に住所を有するもの
- ・ 第2子以下で年齢が20歳以上
- ・ 3年以内に住宅を建築し、居住
- ・ 町との建築協定を遵守すること

さらに、賃貸価格も若者が宅地を求めやすい価格で設定した。

現在居住している人の申込時の職業の約7割が漁業に従事しており、道口団地は越前地区の若者の定住促進や漁業者の定住に寄与していると思う。この団地の子どもたちが将来、自ら漁師を志し、次世代の担い手になってくれれば、町にとってすばらしいことだ。

道口定住促進団地も含め、町としては、意欲のある漁業者を確保し、担い手として育成していくことは、漁業、漁村の持つ多面的機能の発揮や地域の活性化の観点から重要と考え、今後も全力で取り組んでいく。





北島 忠幸 議員

いっぱん質問



吉田 憲行 議員

これからの越前町公立小中学校の適正規模・適正配置について

児童・生徒数が減少していく中、学校教育環境の再編成は

吉田

現在本町には、小学校が8校・中学校が4校あり、児童生徒数は、令和元年度現在で小学校児童1,093人、中学校生徒548人となっており、現実的に小中学校ともに学校数が多い状況である。それ故に、ほとんどの学校が、※国が定める学校規模基準の小規模校である。小規模校が悪いということではないが、今後、少子化が進行することが必然の中、学校教育環境について、看過することは出来ない。本町も学校教育環境調査委員会を立ち上げ、小中学校の適正規模化についての検討を開始し、その後、本年3月に「越前町の学校教育環境に関する提言書」が提出された。そこで質問だが、ここから「提言書」に沿って、どのように進めていくのか。

※国が定める学校規模基準とは
適正規模校…12～18学級
（統合の場合、19～24学級）
過大規模校…31学級
大規模校…25学級以上
小規模校…6～11学級
過小規模校…5学級以下、若しくは複式学級をとる学校

※越前町の学校教育環境に関する提言書とは

町内外の有識者、関係者が、越前町の学校の適正規模・適正配置の基準を定めるとともに、これに基づいて、今後の学校教育環境の適正化に係る基本方針並びに提言を取りまとめたもの

町長

少子化は、児童・生徒数の減少に拍車をかけており、本町においても今後、過度の小規模校化がさらに進むと予想される。
本年3月に学校の適正規模・適正配置についての基準や基本方針を取りまとめた「越前町の学校教育環境に関する提言書」が教育長に提出された。「提言書」には、学校や地区の状況に応じては、早急に地域住民や保護者等と協議し、結論を急ぐ必要がある学校、あるいは、さらに検討を深めて結論を導く必要がある学校等、それぞれの地域の実情に配慮しながら取り組んでいく必要があるとしている。
5月の人事異動において担当課に教育環境担当を配置し、様々な課題に対して、解消や緩和に向け順次進めていく。

吉田

保護者や地域住民に対し、説明会を開催する等の具体的なスケジュールはあるのか。

町長

計画やスケジュールについては、先行する県内市町を参考としながら、本町に適した方法を探していく。住民説明会等は、この方法を固めてから慎重かつ丁寧に順次行っていく。

教育長

「提言書」に基づいて、町長が進める具体的な目標に遅滞なく沿えるように、関係各位の理解を賜り進めていく。

最後に

吉田

教育関係やコミュニティの改革は、地域住民への配慮に重きが置かれ、タブーとされていた面があった。しかし、これからの時代は、これらにも踏み込むべきだ。未来永劫、本町が存在し続けるために、また安心・安全なまちづくりを進めていくためには、財政基盤の健全化・効率化を第一義に考えるべきだ。本町にとって何が必

要か、子どもが輝くまちづくりを進めるには何をすべきかを町民全員が考え、無駄を極力なくし、施策を見える化し、スピード感を持って実行していくことが大事であると考える。
学校教育環境問題については、今後、しっかりモニタリングしていきたいと思う。



「サービス付高齢者向け住宅」って、どんなのかな？

北島

青柳新町長の町長選挙時の公約に、高齢者生活支援策として、「越前町型サービス付高齢者向け住宅の整備」が掲げられていた。サービス付高齢者向け住宅の整備は、戦後生まれの老人の人口比率がますます高まり、人口の高齢化が進む本町にとって当面、不可欠で重要な政策になると思われる。

町長

現在、本町では高齢化が進み、独り暮らし高齢者や高齢者のみ世帯が増加している。そのような中でも、住み慣れた地域で暮らし続けたいと誰もが願うことだと思う。そして、介護者が高齢化し、十分な介護ができないことや、入院期間の短縮により退院後も医療依存度が高い人が多く、在宅での生活に不安を感じる人が増えているのが現状である。しかしながら、在宅での生活が困難になっても、町外の子どもの所へ行くよりも、住み慣れた本町を離れたくないという人も多くいる。
そこで、退院後の自宅での生活

に不安を持つ人が、元気で日常生活に復帰できるよう支援体制を整えること、つまり医療と密着した居住環境を提供できる「サービス付高齢者向け住宅」が求められている。

この住宅は、独り暮らし高齢者及び高齢者夫婦が居住できる賃貸の住まいで、通常の介護施設とは異なり、終身そこで暮らし続けることはできない。介護・医療と連携して高齢者を支援するサービスを提供する住宅で、平成23年に高齢者の居住と安定確保に関する法律の改正により、国土交通省・厚生労働省の共管制度として創設された住宅事業で、国土交通省から建設費の1割が補助される。

構造としては、全面バリアフリー、居室の床面積は原則25㎡以上で、水洗トイレ・洗面設備等が整えられ、居間・食堂・台所など共同で利用するスペースもある。ケアの専門家に、見守りや生活相談のサービスを受けることができ、入居者が個別に訪問看護や訪問介護サービスを利用することも可能である。

構想概要を教えてください

北島

現時点での町長が考えている構想概要（整備場所・規模・戸数・時期・財源・介護保険制度との関連）を伺う。

町長

公約に掲げた「越前町型サービス付高齢者向け住宅」は、住み慣れた地域で自分らしく暮らせるように、退院後の生活に不安をもつ人が、在宅生活の復帰に向けたリハビリ目的の住居と考えている。

医療と結びついた居住環境を整えるということで、場所は織田病院の近隣が適地と考えているが、事業の主体を含め制度設計については、今後関係者と十分に協議し、利用者が喜ばれる住宅を整備していきたい。

スピード感を持って実現を

北島

町長就任から日も浅く、今はコロナ騒動で忙しい状態だと思うが、状況が落ち着けば、この住宅整備について、スピード感を持って精力的に取り組んでいただきたい。そして、具体的な方針が立て



ば、議会とも調整をとっていただきたい。
この構想が、よりよい形で実現されますことを切望する。



こまつ 小松 高宏 議員

小松 越前陶芸村の入口には、町が所有する「越前陶芸村活性化施設」があり、施設取得から2年以上経過し手付かずの状況が続いているが、整備計画の進行状況は。

町長 施設は、飲食の提供やインフォメーションの強化により越前陶芸村全体の活性化を図ることを目的に、平成30年度に旧飲食店跡の土地及び建物を購入した。

その後、施設の活用に向けた運営や整備の在り方について、民間事業者から意見や提案を求める「サウンディング型市場調査」を実施し、陶芸村内で軽飲食を楽しむ場の整備に関して意見を聞いた。事業者のなかには、地理的条件や社会的状況から民間単独による事業展開は厳しいため、町の支援が必要という意見もあった。また平成31年度には、地域住民や宮崎地区議員との意見交換会も開催した。

さらに、令和2年8月には、子育て世代の方を対象としたアンケート調査を実施した。調査の結果、キッズスペースの設置や飲食のテイクアウト販売、Wi-Fi



▲越前陶芸村活性化施設

小松 今後の取り組みは

町長 北陸新幹線開業を見据え、出来るだけ早く整備を願うが、今後の取り組みについては。

町長 整備については検討を続けているが、築40年以上経過している建物の安全性や改修に要する費用対効果といった点を考慮し、利用については見直していきたい。

整備計画の進行状況は

越前陶芸村活性化施設について

環境の充実などの意見が寄せられるとともに、施設整備に費用をかけることへの疑問や整備後のコストに対する不安といった意見もあった。

今後の取り組みは

小松 北陸新幹線開業を見据え、出来るだけ早く整備を願うが、今後の取り組みについては。

町長 整備については検討を続けているが、築40年以上経過している建物の安全性や改修に要する費用対効果といった点を考慮し、利用については見直していきたい。



いしばん質問 石田 和朗 議員



除雪作業実施の現状は？

石田

織田地区は県内有数の寒冷地であるため、中心市街地に先駆けて消雪装置が設置されたと聞いている。消雪装置は、雪が降るとセンサーが感知して水が噴出して解けるが、今年のようなゲリラ大雪ではほとんど雪が解けない。

通常、新降雪深が10cmを超えると除雪車が出動するが、消雪装置がある道路の間は除雪車の出動がない。そのため、解けずに積もった雪は大型車両で踏み固められ、道路は瞬間に1車線となって車両のすれ違いが困難となり、接触事故が起こっている。また、その道路を歩くしかない通学児童や高齢者は、通行車両に泥水シャベットをかけられ、大型車両が来ると、脇の高くなった積雪のところにのり登り避難をしている姿を見かける。

実際の除雪作業の現状はどうか。

町長

本町は、町内全域が豪雪地帯に指定されている多雪地域であり、積雪期における円滑な道路交通の確保は、町民の安全で安心な日常生活を維持するために極めて重要な施策である。除雪計画では、町保有除雪機の貸与及び民間除雪機の借上げによる機械除雪と消雪装置による融雪により冬期間の道路確保を図っている。

消雪ではなく氷結装置？

石田

織田地区の消雪装置の水源は地下水ではなく、凍てついた河川水のため解けないのではないかと。消雪ではなく「氷結装置」ではないかと、多くの町民が不満というよう憤っているが、現状はどうか。

町長

消雪装置の水源は、朝日地区では主に地下水を、宮崎・越前地区では河川水を水源としている。同じく織田地区の4路線3,600mの消雪装置も河川水を利用している。

通常の降雪量であれば通行に支

除雪作業実施体制の見直しについて

障はなく、融雪効果を得られているが、今年1月の大雪では、3日間で最深積雪が90cmを記録する異常な降雪量であったため、消雪路線においては融雪能力が追いつかなかった。そのため、消雪路線においては役場職員による除雪作業を実施した。

消雪路線に機械除雪の併用を

石田

消雪路線においても、除雪作業の実施体制の見直しを検討し、今後は大雪になる前に機械除雪を併用していくことを要望するが、町長の考えは。

町長

消雪設置区間においては、家屋が連担しているため十分な堆雪場所が確保できず、更に排雪可能な地点までの距離が遠いことから、除雪車のみでの排雪は極めて困難な状況にある。

そこで本町では、大雪時には消雪路線の幅員を確保するため、ロータリー除雪車にダンプトラックを並走させての排雪を実施することとしており、今後も消雪路線における適時的確な除雪に努めてまいりたい。



機能低下施設の改修を

石田

消雪装置のなかには、耐用年数が進んでいる施設があるが、現状はどうか。

町長

織田地区の消雪路線のなかには、平成5年の施設改修後28年が経過している施設もあり、機能低下の見られる施設については、更新の補助事業採択を強く要望するなど、積雪期における沿線町民の交通の確保を一層努める。

今年度のイベント開催について

次年の成人式の開催は

小松

令和3年の成人式において、他の市町が開催や延期する中、県内で唯一中止を決定した理由は何か。また、新成人に「代替希望調査」のアンケートを行ったと聞いているが、その結果と今後の対応、次年の成人式の開催について伺う。

町長

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、県外からの帰省者や参加者同士の感染を防止するため、中止を決定した。決定に際し、保護者から問合せが十数件あったと聞いているが、議員と同様、非常に心苦しく思った。

町としては、新成人にお祝いの記念品を送付するとともに、成人式式典の「代替希望調査」のアンケートを同封した。しかし、80.3%が未回答であったことから、アンケート調査を再度行いたい。そして、最終的な意思確認をした上で、対象者の皆様の意向に沿う形で判断したい。また、次年の成人式の開催については、感染症対策を徹底しながら開催したい。

コロナ禍におけるイベント開催の是非

小松

5月に開催の「越前陶芸まつり」が中止となったが、近隣市町のイベントを見ると、鯖江市の「河和田塗越前漆器まつり」など、秋に延期となっている。今後の各イベント開催に関して、町長の所見を伺う。

町長

越前陶芸まつりについては、新型コロナウイルス感染症の現状を踏まえ、町民の皆様の不安や感染拡大の防止といった観点から、実行委員会において昨年に引き続き開催中止を決定した。イベントについては、県内外の新型コロナウイルス感染症の状況やワクチン接種の状況をみながら、まずは町民の皆さんの安全・安心を第一に行われるべきと考える。

小松

コロナ禍において陶芸まつりが2年続けて中止となり、関係者の皆さんは大変厳しい状況に置かれている。今後の感染状況にもよるが、通常の陶芸まつりのような大規模でなくても、違う形でイベントを行ってほしい。



木村 繁 議員

いっぱん質問



長谷川 眞恵 議員



原子力発電の安全対策（避難計画）について

重大事故の際の広域避難は

長谷川

福島原発事故から10年がたった今、40年超の原発の再稼働が決定した。

今もなお、使用済み核燃料中間貯蔵施設の問題が解決されていないなか、原発の重大事故の際は、広域的な住民避難は大丈夫なのか。

町長

原子力災害時避難計画については、災害対策基本法により作成が義務づけられ、敦賀発電所、もんじゅ、美浜発電所の3発電所の事故に対し、原子力事業所から30km圏外への広域避難が迅速かつ円滑に行われるよう計画されている。計画の中では、本町民の避難先である坂井市の施設、安定ヨウ素剤の配布場所、避難のルート、輸送手段、バス手配など様々な状況を想定した計画となっている。

美浜発電所の緊急事態時には、発電所から30km圏（UPZ圏）で、28万人もの人が避難を強いられることになる。本町民のほかこれら全ての人を安全な地域に避難してもらうため、各市町での避難計画のほか、国を中心とした福井エリア地域原子力防災協議会では、県内のみならず中京、関西など、近

隣の6府県68市町が協力し、バスなどの輸送体制、避難所での物資の確保、渋滞の緩和などについて連携体制を取っている。しかしながら、この広域避難を円滑に進めるためには、平時から避難方法などについて広報での周知や訓練、研修など様々な機会を通じて町民に説明し、理解を深めってもらう必要がある。

広域避難時のコロナ対策は

長谷川

コロナ感染症対策を踏まえた検温受付など、町民の安全を第一に考えて慎重な対応をしてほしいが、避難の際の感染症対策は。

町長

新型コロナウイルスなどの感染症対策についても、一般災害と同様に国・県のガイドラインに基づき対応していく。

平時から万が一の有事に備え、町民の防災意識の高揚を図り、安心して安全なまちづくりに向け努力していきたい。



コロナ禍における子どもの遊び場の確保について

泰澄の杜に遊具の充実を

長谷川

昨年よりコロナ感染症による遠出の自粛が続いており、子供たちにも非常に大きな影響を及ぼしている。越前市の「かこさとし公園」や池田町の「アドベンチャーパーク」などへ行けば、たくさん遊ぶことができる。子どもにとって遊ぶことは重要で、コロナ禍においても、よりよい環境を与えてあげなければならない。

そこで、泰澄の杜にあるアスレチック遊具のほかに、子どもが喜ぶ人気遊具を充実させてほしい。

町長

泰澄の杜は自然環境の保全と、都市と農村の交流を通じて自然との触れ合いの場とすることを目的に、平成8年にオープンした。パーベキュー場や観光ブドウ園を有するほか、芝生広場にあるアスレチック遊具をたくさんの子どもたちが利用している。

現在のところ、この芝生広場に新たな遊具を増設する計画はなく、泰澄の杜を訪れた子どもたちには、広々とした芝生で思い切り体を動かしてもらいたい。

今後子どもたちが快適に利用できるよう、既存のアスレチック

遊具の維持補修を行い、施設の適切な管理運営に努めていきたい。

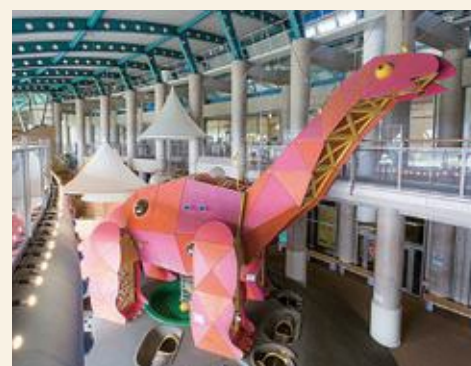
全天候型の遊び場の整備を

長谷川

コロナ禍のなか、自粛が続いて遠出ができない日も、雨の日も雪の日も風の日も遊びたいのが子どもなので、全天候型の遊び場を是非整備してほしい。

教育長

子どもたちにとって遊び場は、非常に大切な教育の施設である。全天候型の遊び場がすぐ設置できるとは考えていないが、子どもたちの健康で健全な育成のためにも、必要なものについては検討していきたい。



▲坂井市 エンゼルランド プレイザウルス

ネーミングライツ事業について

公共施設にネーミングライツを！

木村

県内におけるネーミングライツ事業は、平成27年に福井市で自然博物館分館に「セーレンブラネット」として命名されてから、順次越前市、坂井市でも取り入れられている。

そこで、本町のネーミングライツ事業について、町長の所見を伺う。

町長

国内公営施設では初めて東京都の多目的スポーツ施設が「味の素スタジアム」として命名され、以来、自治体における施設維持費の財源確保を主な目的として全国へ広がりをみせた。事業の根本は、企業の宣伝効果や地域貢献による企業のイメージアップがメリットとして成り立っている。そうした企業のメリットを満足させる広告媒体として、価値を持つ施設の提供ができるか、事業実施につながるよう検討を進めていきたい。

※ネーミングライツとは、スポーツ施設などの名称に企業名や社名ブランドをつけることで、公共施設の命名権をスポンサー企業が買っぱいすること

ロケツーリズムで地域活性化を！

木村

本町は、海あり山あり里ありの「人と技 海土里 織りなす 快適なまち」がキャッチフレーズであり、映画やドラマなどの映像作品のロケーションの撮影地としては、県内で最も適している町と言っても過言ではない。

ロケ誘致の事例として、千葉県の茂原市は約2年半で映画など105件のロケ誘致を実現し、本年2月には、ロケ地を観光資源として活用した全国的な規範の地域企業を表彰する「ロケツーリズムアワード」で、地域部門27団体の中から最優秀に当たる地域大賞を受賞し、地域の活性化に大きな貢献をして観光客を呼び込む取り組みが評価された。

そこで、本町をロケの聖地として、地域活性化に取り組み考えはないのか。

町長

若者の旅行離れが進んでいると言われる中、映画やアニメの舞台となった街を巡る聖地巡礼によって多くの若者が地域を訪れ、街が賑わっているといった事例も多数ある。県内においても、NHK連続テレビ小説「ちりとてちん」の

ロケツーリズム及び今後の観光戦略プランの方向性について

舞台として、市内でロケが行われた小浜市や、携帯電話会社のCM撮影の舞台となった一乗谷朝倉氏遺跡などは、ドラマやCM放送以降、目に見えて観光客が増加したと伺っている。

一方、本町においては、映画やドラマといった話題性や継続性の高いロケの実績はほとんどない。情報番組などとは違い、制作側が物語のイメージに合う場所を探しロケを行うものであり、ロケ地として制作する側に意識させる仕掛けや情報を発信していくことが非常に重要になる。

このことから、本町が有する自然や文化といった豊富な資源の情報が制作サイドに届くよう、これまで以上に町の魅力を情報発信していく。

※ロケツーリズムとは、映画・ドラマのロケ地を訪ね、風景と食を堪能し、人々の「おもてなし」に触れその地域のファンになること

今後の観光戦略プランの方向性

木村

今後の観光戦略プランの方向性について、町長の所見を伺う。

観光行政の目的とは、地域全体への経済的効果を高めることと、住んでよし、訪れてよしの観光地づくりであると考えている。そこで、これまで展開してきた町が主体となって取り組む観光行政から軸足を移し、行政、事業者、地域の皆様、それぞれがそれぞれの立場で知恵を出し合い、努力し、築き上げていく観光地づくりへと転換していきたい。

町長

今後の方向性としては、町は行政の立場で誘客の基盤となる道路などの整備改良や観光施設の充実に努めるとともに、人材の掘り起こしや育成、また事業者の様々な活動のサポートに注力していく。事業者には、誘客に向けた活動に力を注いでいただき、地域の皆様には、おもてなしの心を持って訪れる方をお迎えしていただきたい。このようにして、それぞれの役割を果たしながら、一緒に魅力ある観光地をつくり上げていきたい。

また、北陸新幹線福井開業に向けた観光戦略の展開も喫緊の課題であり、さらにアフターコロナを見据えた観光施策についても、早急に検討していかなければならない。

議会・委員会・一部事務組合等議員出欠状況

3月27日～6月14日

○…出席 ×…欠席 △…遅刻・早退

月日	曜日	諸 会 合 名	笠原 議長	佐々木 副議長	小松 議員	時田 議員	吉田 議員	石田 議員	長谷川 議員	中西 議員	高田 議員	藤野 議員	米沢 議員	伊部 議員	木村 議員	北島 議員
3	30	火	県後期高齢者医療広域連合議会定例会	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	5	月	議員月例会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9	金	議会広報特別委員会	-	-	○	○	○	○	○	-	○	○	-	-	-
4	19	月	議会広報特別委員会	-	-	○	○	○	○	○	-	○	○	-	-	-
		月	鯖江・丹生消防組合議会臨時会	-	-	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	○
	27	火	議会運営委員会	○	-	-	-	-	-	○	-	○	○	○	○	○
		日	第2回議会臨時会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	30	金	議会運営委員会	○	-	-	-	-	-	○	-	○	○	○	○	○
5	6	木	議員月例会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10	月	町内公共施設視察	-	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-
	11	火	町内公共施設視察	-	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-
	20	木	産業土木常任委員会	-	○	○	○	-	-	-	-	○	-	○	○	○
	28	金	議会運営委員会	○	-	-	-	-	-	○	-	○	○	○	○	○
6	7	月	議員月例会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	8	火	6月議会定例会 本会議（1日目）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		日	6月議会定例会 本会議（2日目）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9	水	産業土木常任委員会	-	○	○	○	-	-	-	-	○	-	○	○	○
	10	木	6月議会定例会 全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	11	金	6月議会定例会 全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	14	月	6月議会定例会 本会議（3日目）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		日	議会広報特別委員会	-	-	○	○	○	○	○	-	○	○	-	-	-



表紙の写真

朝日西保育園（上糸生）

上の写真は、7月7日に行われた七夕会（お祭り）で、年長児さんを写しました。子どもたちはかわいい浴衣や甚平を着て、盆踊りやおみこし、屋台などを楽しみ、お祭り気分を味わっていました。

（写真撮影：時田議員）

また下の写真は、体育教室で4・5歳児たちが「手押し車体操」をしている時の様子です。月に一度、専門の講師の先生に、ストレッチ体操や鉄棒、跳び箱などを指導して頂いています。子どもたちは汗だくになりながらも、楽しそうに体を動かしていました。みんな元気に、すくすく育って欲しいですね。

7/2 町議会広報研修会

議会に対する町民の関心を深めるために、議会広報の必要性が求められていることから、議会広報担当者を対象としたオンライン研修会が行われました。

オンラインでの町議会広報研修会

更に今後は「子育て世代や若い世代も関心をもつ広報」を目指します。

1 もっと身近に
町民の議会活動への関心を高めていく

2 もっと早く
WEBやSNSとの連携を強化

3 もっと広く
進んで読みたくなるように工夫

6月議会定例会 現場踏査（6月10日）



道の駅パークイン丹生ヶ丘 改修工事



悠久ロマンの杜 朋楽館改修工事



町内公共施設視察（1期議員研修）（5月10・11日）



越前陶芸村文化交流会館



- ・ 建築年：H6
- ・ 施設利用者：約5万人（令和元年度）

夢の杜おた（最終処分場）



- ・ 建設年：H7
- ・ 埋立容量：116,800m³
- ・ 浸出水処理量80m³/日

織田文化歴史館



- ・ 建築年：H10
- ・ 図書館織田分館併設

町立ホッケー場



- ・ 竣工年：H18
- ・ 人工芝2面



チームの紹介をお願いします
僕たち「朝日野球スポーツ少年団」は、朝日地区で40年以上活動している歴史あるチームです。現在は小学6年生3人、5年生5人、4年生10人の部員がいます。



がんばって
ます!

朝日野球スポーツ少年団

Interview activities

活動内容について
教えてください

朝日小学校グラウンドを拠点に、火・水・金曜日は午後6時から8時まで基礎練習を中心に、また土・日曜日は一日中練習試合を行っています。

一昨年は県大会優勝、昨年はベスト8と輝かしい実績を残していましたが、昨シーズン終了後に部員が6人となり、休部の危機に陥りました。しかし、年末年始にかけて5年生が2人、4年生が10人一気に入部し、チームが活気付きました。現在マクドナルド杯、知事杯、ろうきん杯の学童野球公式戦の優勝を目指し、日々がんばっています。

最後に一言お願いします

野球の前に、元氣なあいさつと礼儀が一番だと思います。「心・技・体」で己を鍛え、仲間とともに成長できることが野球の魅力です。

体験も随時受け付けていますので、是非お気軽にお声がけください。
(インタビュー 時田)

お問い合わせ

清水監督

090-5685-4090



傍聴席へどうぞ 次の定例会は9月です

(日程については、議会事務局にお問い合わせください) TEL.0778-34-8712

編集後記

町内をはじめとする県内各地において始まったワクチン接種も、十月中には希望者全員が終了する予定であり、なんとか世の中が落ち着いてくれることを祈るばかりです。

暗いニュースが続く中、越前町にとって本当にうれしいことがありました。東京オリンピックのホッケー日本代表に、わが町出身の三谷元騎さん、渡辺晃大さん、野村香奈さんの三選手が選ばれました。この議会だよりが発行される頃には、彼らが晴れの舞台で大活躍していると思います。

プロ野球広島東洋カープの玉村昇悟選手も頑張っています。越前町の若者が、これからもいろんな場面で輝いてくれることを期待しています。
(時田)

議会広報特別委員会

委員長 藤野 菊 信

副委員長 小松 高 宏

委員 米 沢 康 彦

中 西 清

長谷川 眞 恵

石 田 和 朗

吉 田 憲 行

時 田 和 一 良

バックナンバーが町のホームページでご覧いただけます

<http://www.town.echizen.fukui.jp/chousei/04/index.html>

